

LINTEC Corporation

個人投資家様向け会社説明会

リンテック株式会社

証券コード 7966

2026年3月8日

LSV 2030
LINTEC SUSTAINABILITY VISION
Stage 2 

目次

01 リンテックの概要 P3**02 製品・技術、事業部門概要** P14**03 2026年3月期 連結業績予想** P36**04 長期ビジョン、中期経営計画** P38

01

リンテックの概要

会社概要

LINTEC Corporation

社名	リンテック株式会社（英文：LINTEC Corporation）
本社	東京都板橋区
代表者	代表取締役社長 服部 真
上場取引所	東証プライム市場
証券コード	7966
資本金	233億55百万円（25年3月末）
事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
事業内容	粘着製品、粘着関連機器、特殊紙、剥離紙・剥離フィルムなどの開発・製造・販売

設立

1934年10月

連結売上高

3,160億円
(2025年3月期)

連結営業利益

246億円
(2025年3月期)

グローバル展開

18の国・地域に
37の連結子会社

連結従業員数

5,311人
(2025年3月31日現在)

研究開発費

101億円
(2025年3月期)

株主還元

1株配当110円
(2026年3月期 (予想))

配当利回り

2.31%
(2026年1月30日時点)



ガムテープメーカー
不二紙工株式会社設立 (東京・板橋)

FSK株式会社に
商号変更



マディコ社 (米国)
を買収



光学ディスプレイ
関連分野に本格参入

1927 1934 1960 1984 1986 1987 1990 1991

不二商会を創立し、
包装用ガムテープの
製造・販売を開始



ラベル用粘着紙・
粘着フィルムの
製造・販売を開始

以降、二輪・自動車、屋外
装飾関連などの工業分野に
粘着事業を拡大

UV硬化型ダイシングテープ
を開発し、半導体関連分野
に本格参入



四国製紙、創研化工と3社合併
「リントック株式会社」に商号
変更

特殊紙、剥離紙・剥離フィルムから粘着紙・
粘着フィルム、関連機器分野にまで業容を拡大

リンテック・
インドネシア社
を設立



琳得科（蘇州）
科技有限公司
を設立



リンテック・
タイランド社
を設立



マックタック・
アメリカ社
を買収

同業メーカーの事業を
譲り受け、スピネカー社
（米国）を設立

後にマックタック・アメリカ社
の子会社に統合

1994

2000

2002

2004

2011

2013

2015

2016

2021

2022

2023

リンテック・インダストリーズ
（マレーシア）社を設立

リンテック・コリア社
を設立

ナノサイエンス&
テクノロジー
センター（米国）
を開設

研究所に先端技術
棟を建設



ラベルサプライ社
（カナダ）の事業を
買収

デュラマーク社（米国）を買収
後にマックタック・アメリカ社の子会社に統合

業績推移 / 売上高、営業利益

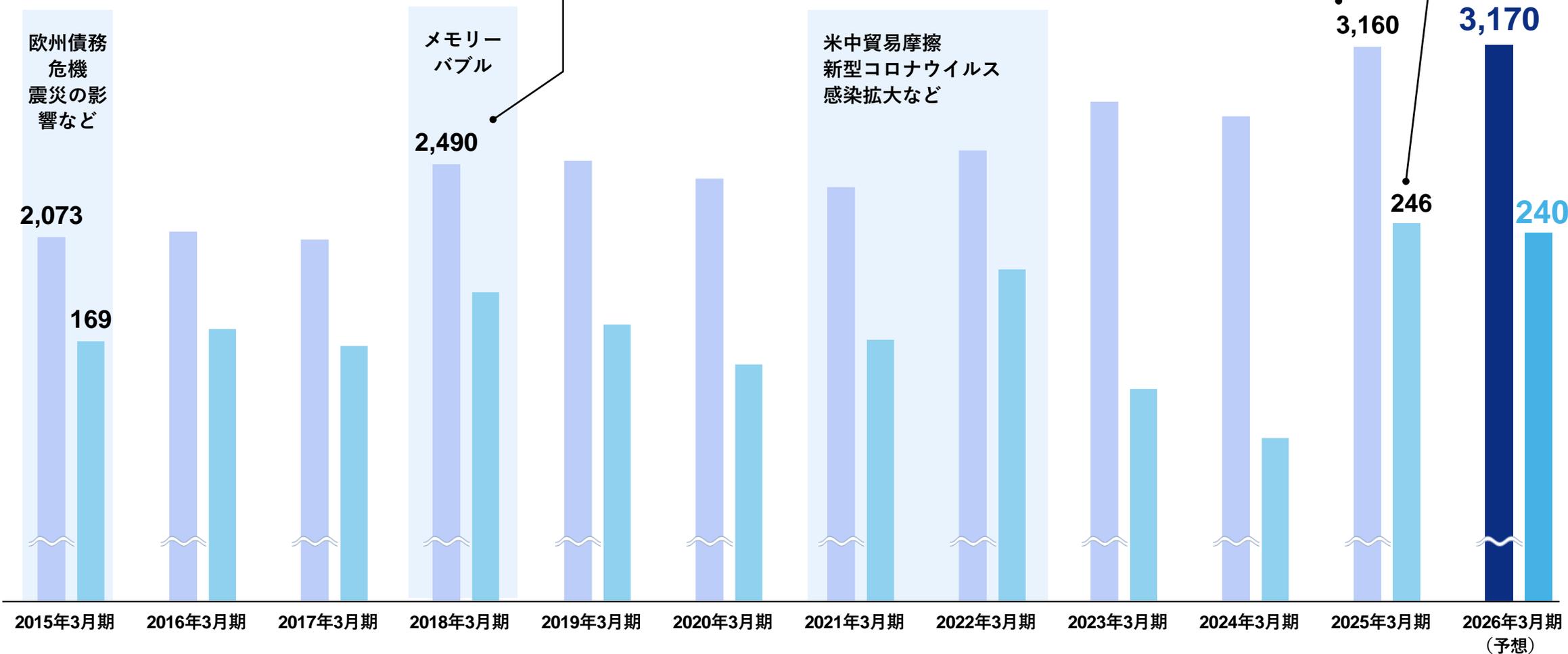
■ 売上高 ■ 営業利益

マックタック買収により
売上高増加

過去最高
売上高

過去最高
営業利益

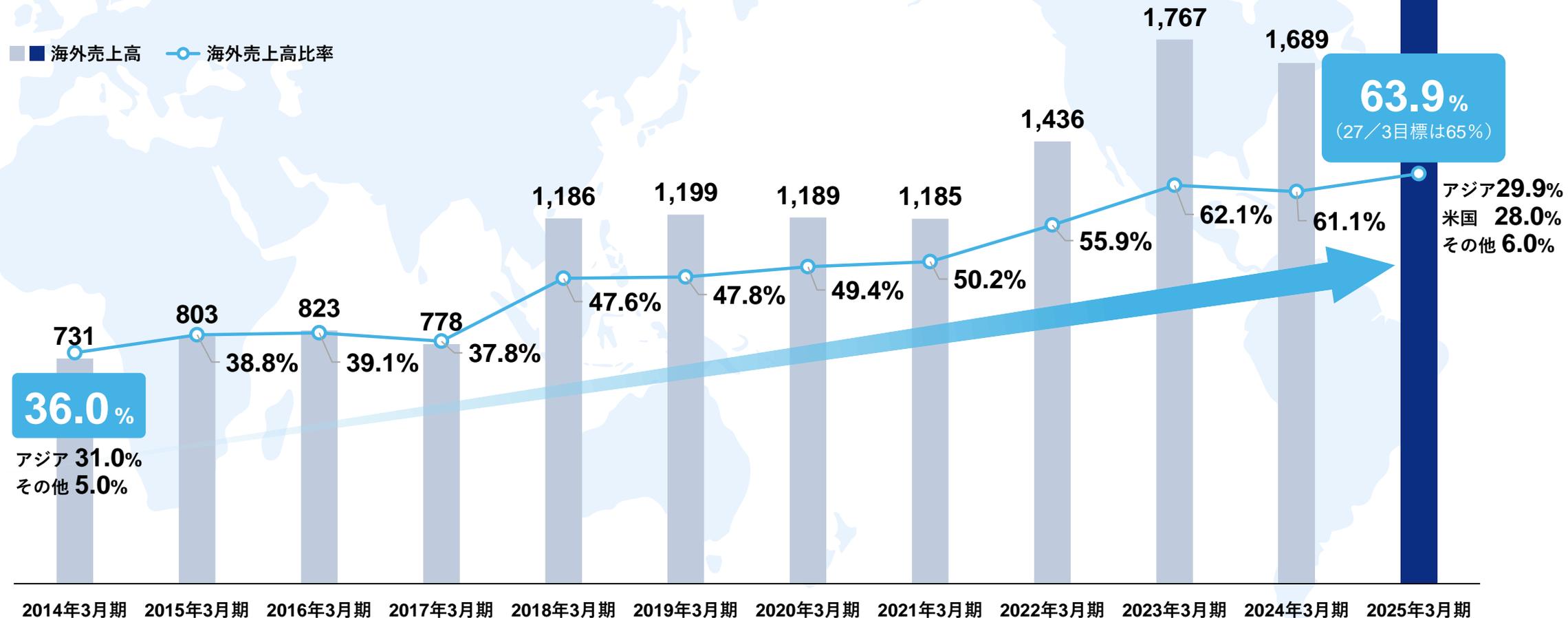
(単位：億円)



(単位：億円)

直近の約10年間で**1,287億円増加**
176%アップ

■ 海外売上高 ● 海外売上高比率



36.0%
アジア 31.0%
その他 5.0%

63.9%
(27 / 3目標は65%)

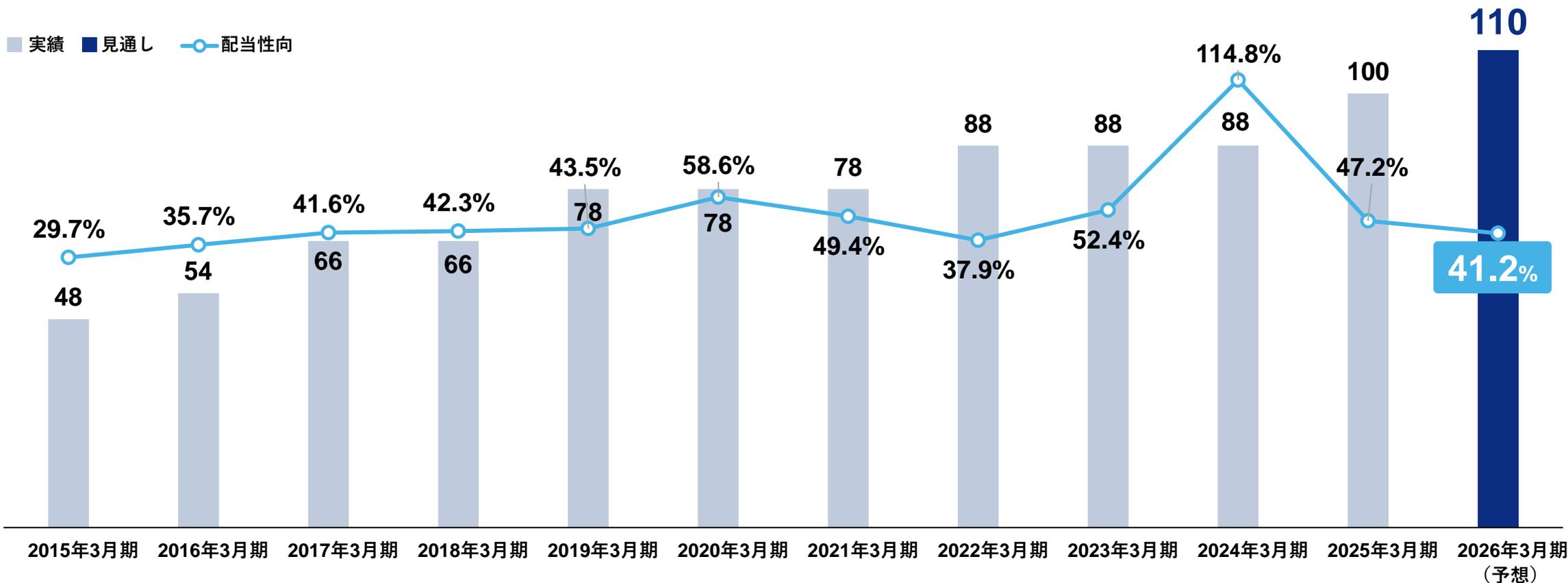
アジア 29.9%
米国 28.0%
その他 6.0%

■ 1株当たり配当金推移

(単位：円)

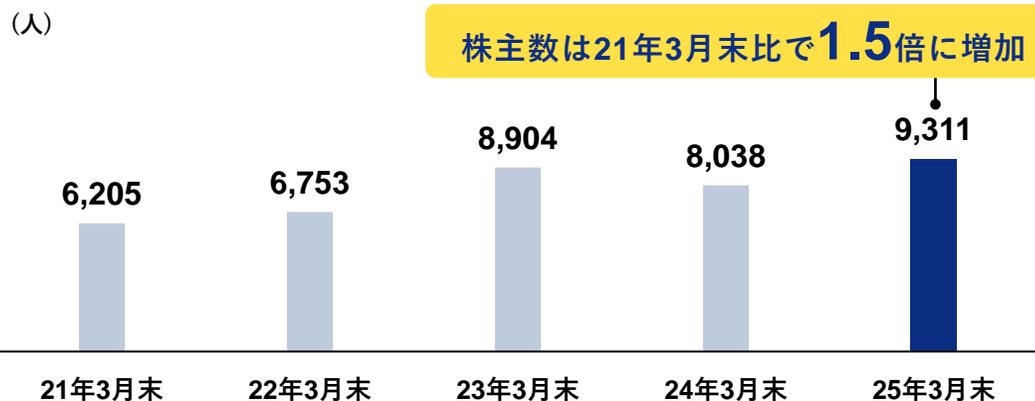
2024年3月期より配当方針を変更

- ・ 中期経営計画「LSV 2030-Stage 2」最終年度である2027年3月期までの4年間は原則として減配しない
- ・ 配当性向40%以上またはDOE（株主資本配当率）3%を目途に配当を実施

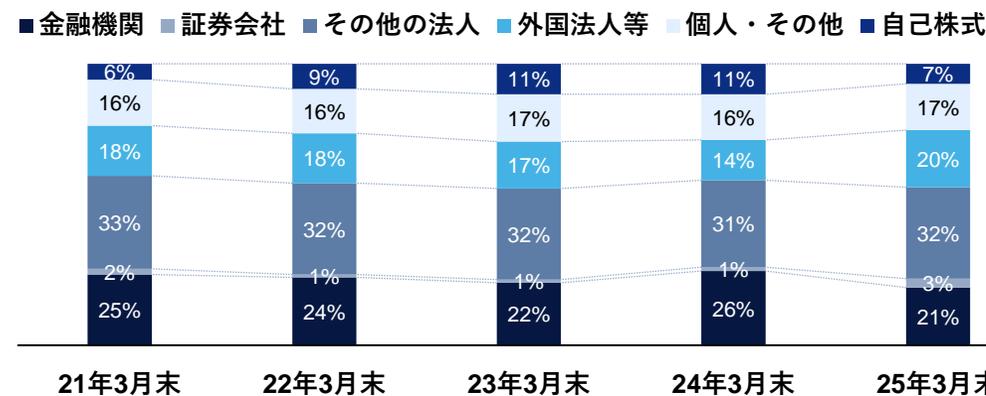


- 当社では適時適切な情報開示による適正株価の形成を目指し、機関投資家や証券アナリスト、個人投資家の皆様に向けた幅広いIR活動を展開しています

個人株主数の推移



株主構成の推移



01 機関投資家・証券アナリストとの対話

個別ミーティングなどで面談した
機関投資家・証券アナリスト

延べ311社
(2025年3月期実績)

02 個人投資家向け説明会

個人投資家とのコミュニケーション強化などを目的とした各種イベントに継続して参加しています。



03 株主通信誌・YouTubeチャンネル

株主通信誌「WAVE」を年2回発行して、業績などの旬な情報をお届けするとともに、YouTubeチャンネルでも当社製品の機能などをわかりやすくご紹介する動画をアップしています。



(株価：円)

株価 : 4,765円

配当利回り : 2.31%

時価総額 : 3,454億円

PER : 17.33倍

PBR : 1.3倍

単元株数 : 100株

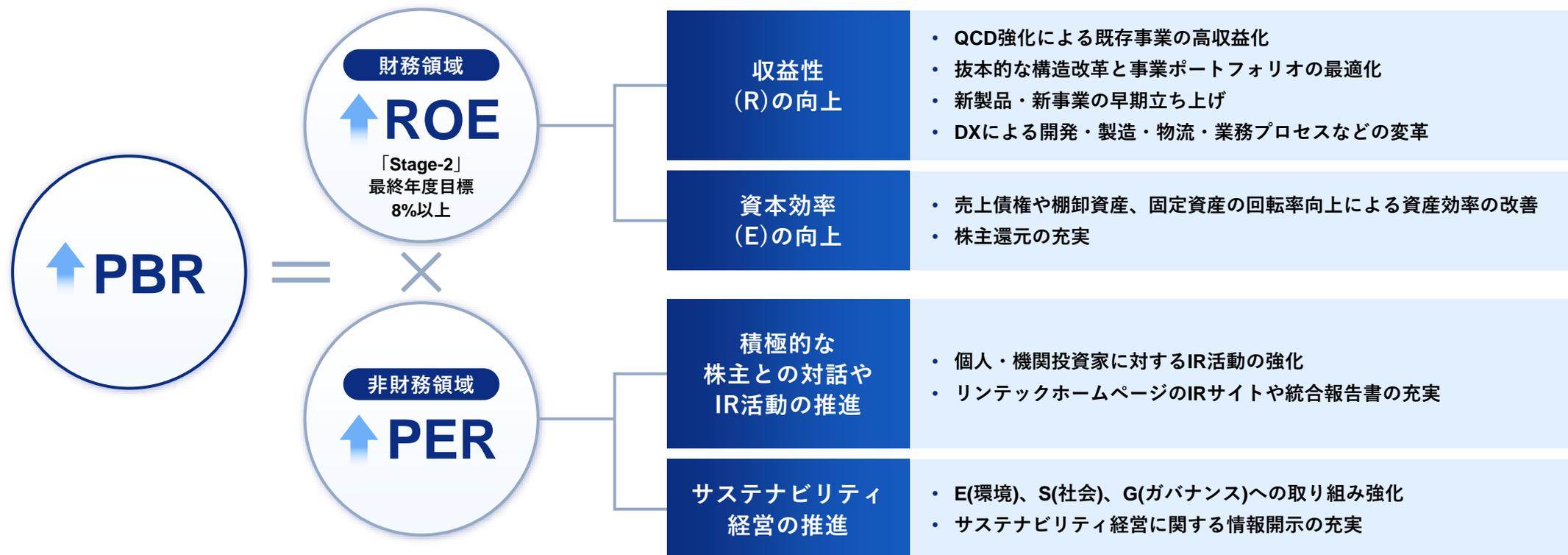
上場来高値 : **5,260円**
(26/02/19)

※ 2026年1月30日終値ベース

当社株価と日経平均株価の推移



方針 ▶ 長期ビジョンの重点テーマや中期経営計画「LSV2030-Stage 2」の諸施策に取り組み、継続的なPBR1倍超えを目指す



長期ビジョン 三つの重点テーマ

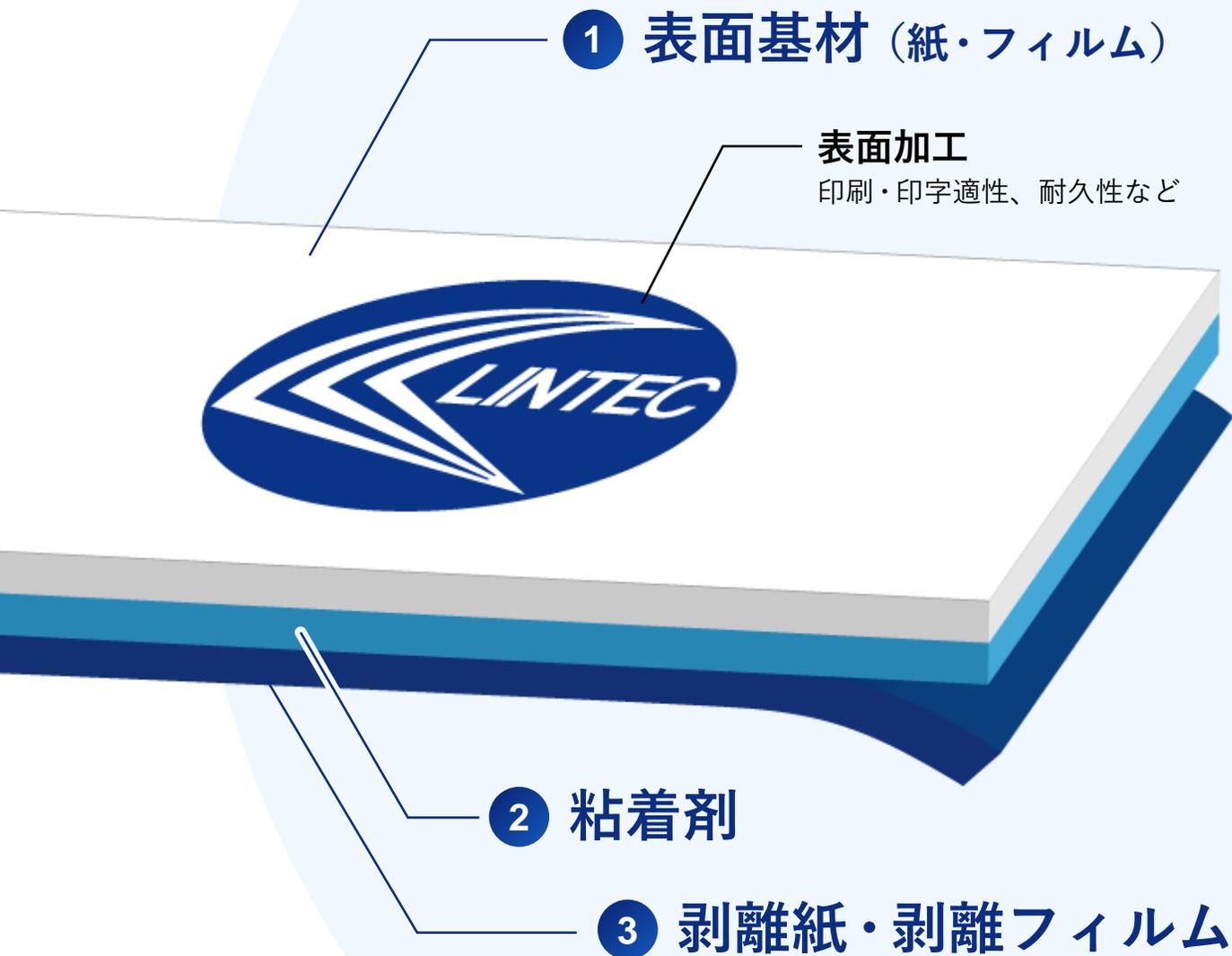
- 社会的課題の解決
- イノベーションによる企業体質の強靱化
- 持続的成長に向けた新製品・新事業の創出

持続的成長に向けたキャッシュアロケーション

02

製品・技術、事業部門概要

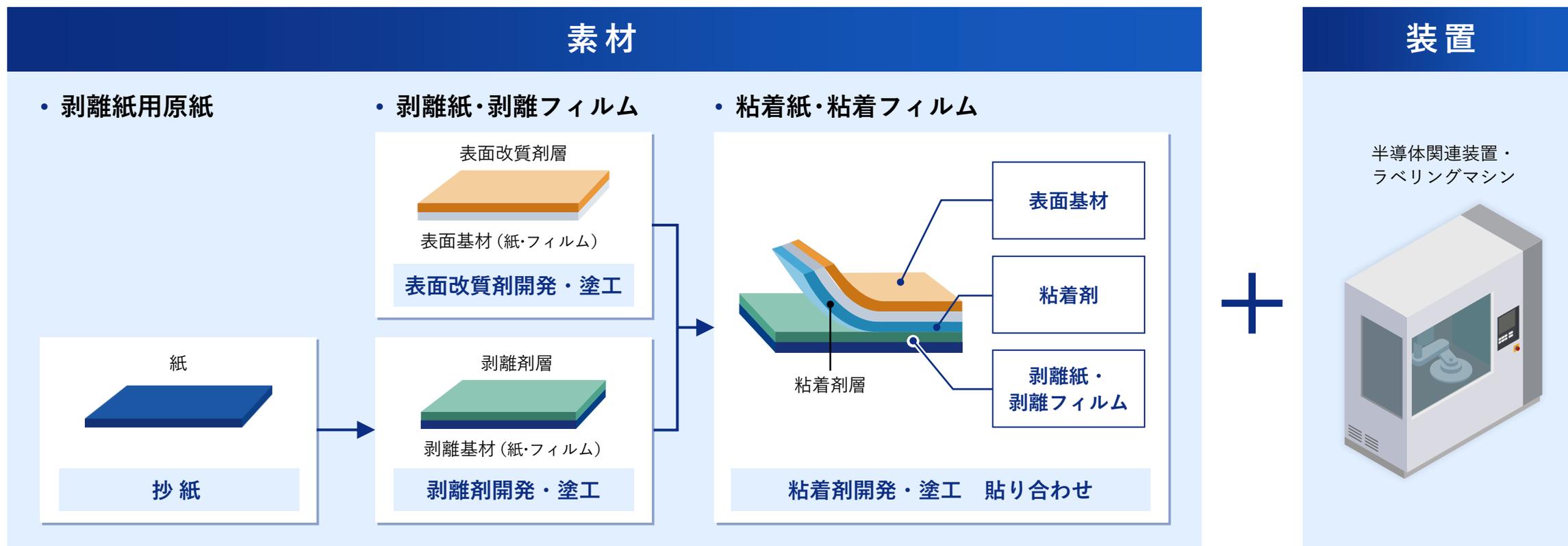




トータルに 自社技術で対応



- 剥離紙用原紙の生産から紙・フィルムへの剥離剤の開発・塗工、粘着剤の開発・塗工、表面基材の改質加工まで、粘着製品の一貫生産体制を構築
- 粘着製品の特徴を最大限に引き出す関連装置も開発・生産することで、素材と装置のトータルソリューションを提供



素材と装置のトータルソリューションを提供



印刷材・産業工材関連

印刷情報材事業部門

産業工材事業部門



電子・光学関連

アドバンストマテリアルズ事業部門

オプティカル材事業部門



洋紙・加工材関連

洋紙事業部門

加工材事業部門



印刷情報材 事業部門

ラベル用粘着紙・粘着フィルム

- 粘着剤によって、永久接着タイプ・再剥離タイプ・再貼付タイプに分けられる
- 印刷・印字適性、耐久性、耐熱性、耐水性、低温適性、曲面貼付性、寸法安定性、意匠性などに優れ、さまざまな用途や使用環境に対応

当事業部門売上高

1,467億円
46.4%

商流



当社



シール・ラベル
印刷加工会社



エンドユーザー



2025年3月期
連結売上高

3,160億円

■ ラベル用粘着紙・粘着フィルムの用途／主な要求性能

粘着紙が中心

食品・飲料関連



- 耐水性
- 曲面貼付性
- 低温適性 など

流通・通販関連



- 印字適性
- 捺印適性
- 低温適性 など

粘着フィルムが中心

日用品関連



- 耐水性
- 曲面貼付性
- 意匠性 など

医療・医薬関連



- 印刷・印字適性
- 耐薬品性
- 改ざん防止機能 など

自動車関連



- 耐油・耐水性
- 耐久性
- 耐熱性 など

家電関連



- 耐久性
- 耐熱性
- ガス透過性 など

■ マックタック・アメリカ社

- 北米のラベル用粘着製品市場第3位のメーカーで、同市場への本格参入のため、2016年12月に約340億円で買収
- のれん約300億円（10年償却）
- 生産能力増強のため、2021年4月に同業のデュラマーク社を約65億円で買収
- 事業領域拡大のため、2022年2月に同業メーカーから約45億円で事業を譲り受け、スピネカー社を設立
- カナダ市場での販売網拡大のため、2023年5月に同業のラベルサプライ社の事業を約70億円で買収



◀ 環境負荷低減に貢献する
ホットメルト粘着技術を保有

創業	1959年
所在地	米国 オハイオ州
従業員数	1,018人（2025年3月末時点）
事業内容	印刷用ラベル素材、可変情報ラベル素材、グラフィックシート、工業用テープ、医療用テープなどの製造・販売



印刷材・産業工材関連

産業工材 事業部門

当事業部門売上高

380億円
12.0%

2025年3月期
連結売上高

3,160億円

ウインドーフィルム（建物用・自動車用）

サイン・広告・内装用化粧フィルム

自動車用粘着製品

工業用粘着テープ

ラベリングマシン・バーコードプリンタ

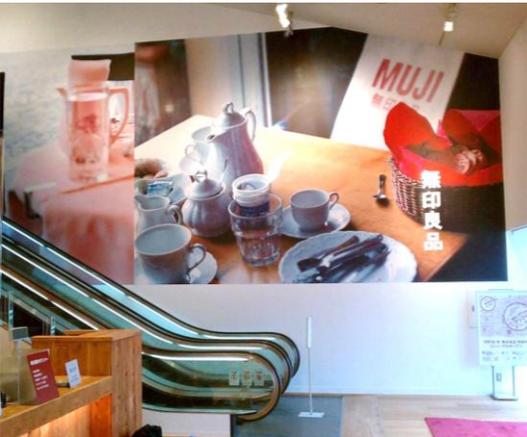
など



建物用ウインドーフィルム



自動車用ウインドーフィルム



サイン・広告・内装用化粧フィルム

■ 産業工材事業部門の主な製品・特徴

建物用ウィンドーフィルム



- ガラス飛散防止
- 日射調整
- 紫外線カット
- 防犯対策
など

自動車用ウィンドーフィルム



- ガラス飛散防止
- 日射調整
- 紫外線カット
など

サイン・広告・内装用化粧フィルム



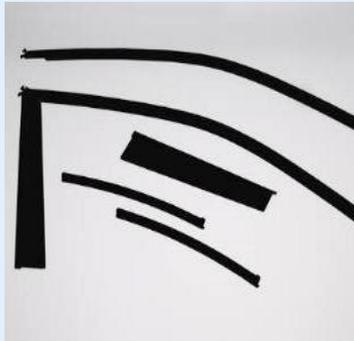
- 耐候性
- 施工適性
- 豊富な種類 など

アルミホイール用保護フィルム



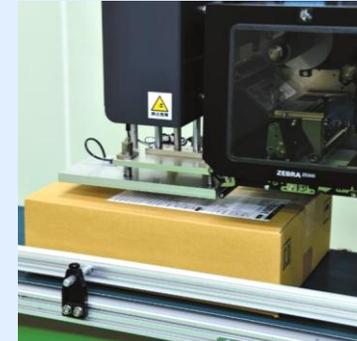
- 耐候性
- 再剥離性 など

ドアサッシ用塗装代替フィルム



- 耐候性
- 施工適性 など

ラベリングマシン



- 高速・効率化
- 作業性
- 自動化 など

電子・光学関連

アドバンスト マテリアルズ 事業部門

当事業部門売上高

850億円
26.9%

2025年3月期
連結売上高

3,160億円

半導体関連粘着テープ

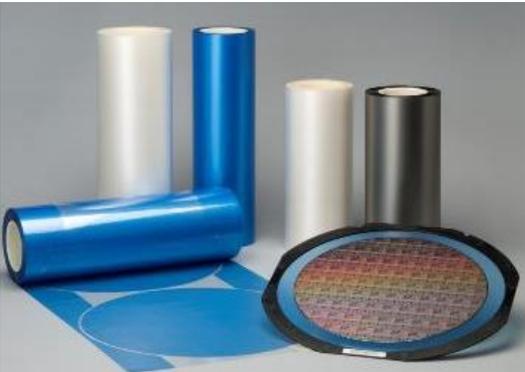
- バックグラインドテープ
- ダイシングテープ
- チップ裏面保護テープ
- ダイシング・ダイボンディングテープ

半導体関連装置

- ウェハマウンター
- テープラミネーター・リムーバー
- UV照射装置

積層セラミックコンデンサ関連テープ

など



半導体関連粘着テープ



半導体関連装置



積層セラミックコンデンサ関連テープ

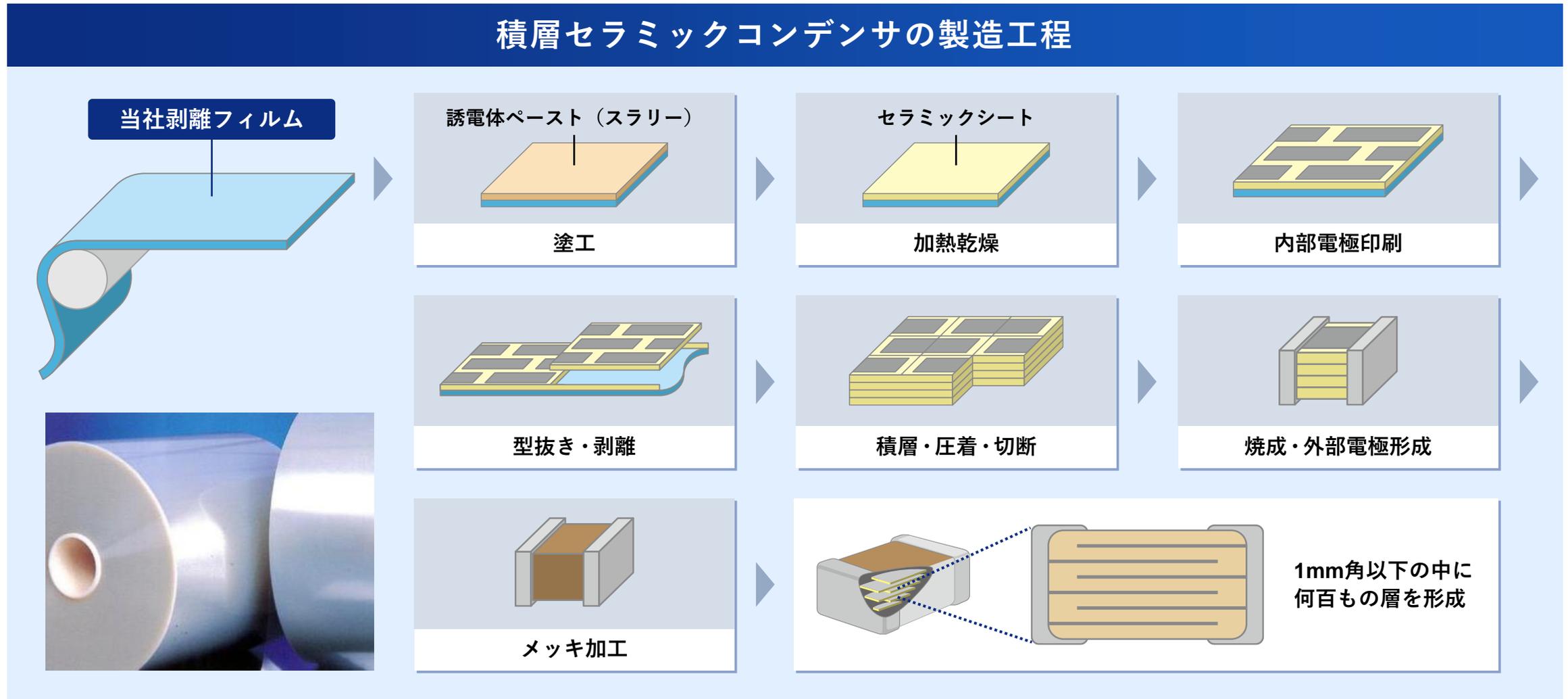
■ 半導体の製造工程

■ : 当社テープ・装置を使用



■ 積層セラミックコンデンサ関連テープ

積層セラミックコンデンサの製造工程

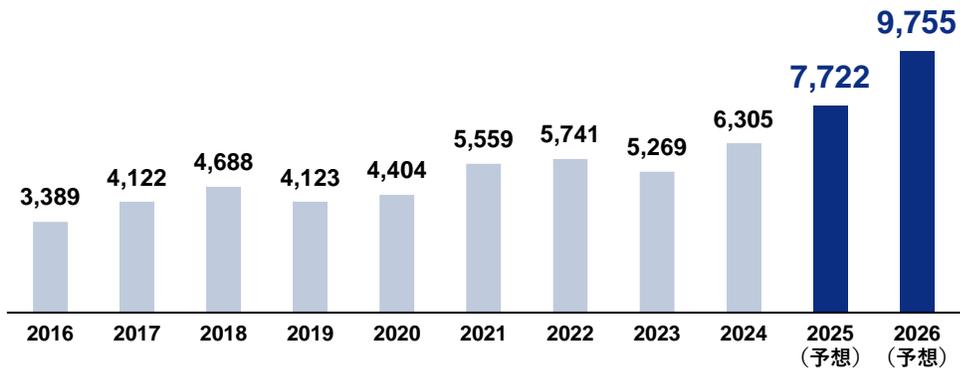


世界の半導体市場の動向

- 2026年は前年比26.3%増と成長の加速が予測される
 - ▶ AI関連のデータセンター投資がけん引役となり、2025年までと同様にメモリー製品やGPUなどのロジック製品の高成長が継続
 - ▶ 地政学的リスクなど先行き不透明感が払拭できないこともあり、AI関連以外は緩やかなプラス成長にとどまる見通し

世界の半導体市場規模

(単位：億米ドル)



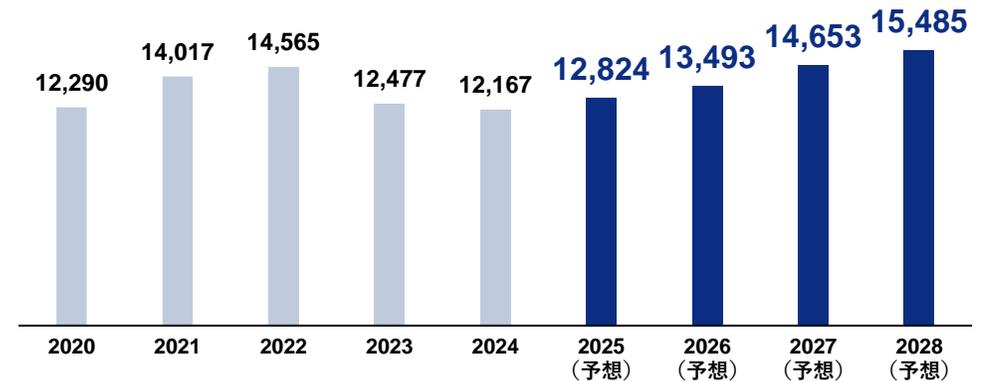
出所：WSTS（世界半導体市場統計）

シリコンウェハ出荷面積の動向

- 2026年は前年比5.2%増の134億9300万平方インチへ拡大する見通し
 - ▶ シリコンウェハの出荷面積は、AI関連製品の旺盛な需要に支えられて安定成長する見通し。2028年には過去最高記録を更新する154億8500万平方インチに到達する可能性も
 - ▶ AI以外のアプリケーション向け製品についても、近年の下降サイクルを脱して緩やかな回復を見せ始めている

シリコンウェハ世界出荷面積

(単位：100万平方インチ)



出所：SEMI

特徴

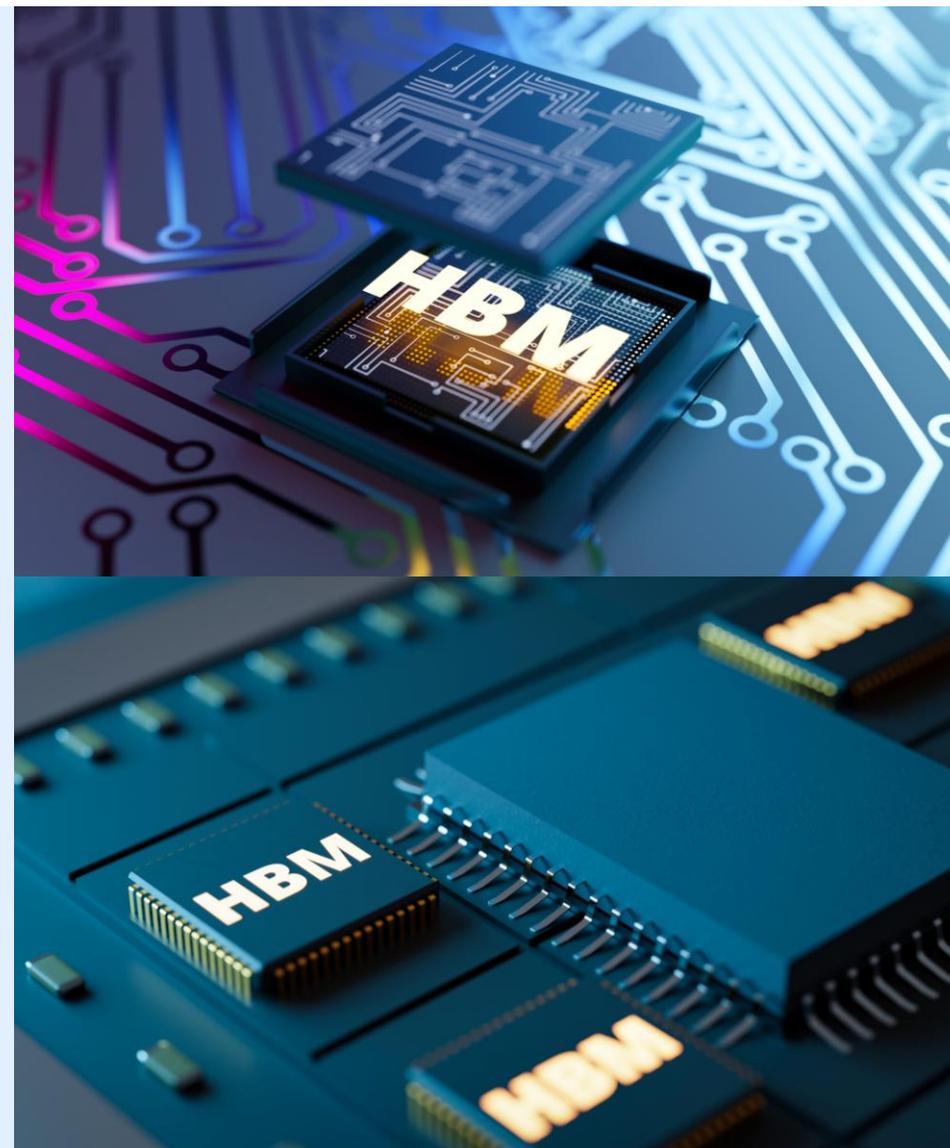
- HBMとは非常に高い帯域幅（データ転送速度）を持ったDRAM
- 複数のDRAMチップを積層してデータ処理速度を高めることで、大容量のデータ処理技術が不可欠なAIに最適な一次記憶メモリーとして採用された
- AI開発などに使用されるGPU（画像処理半導体）にHBMが搭載されることもあり、AI時代の発展を支える半導体として注目される

当社とHBMの関連性

- DRAMを積層する工程で使用されるテープを貼付する装置を展開し、複数のHBMメーカーから採用

2025年3月期決算における
当社のHBM向けテープラミネーターの売上高

上期実績：47億円 下期実績：43億円 通期実績：90億円



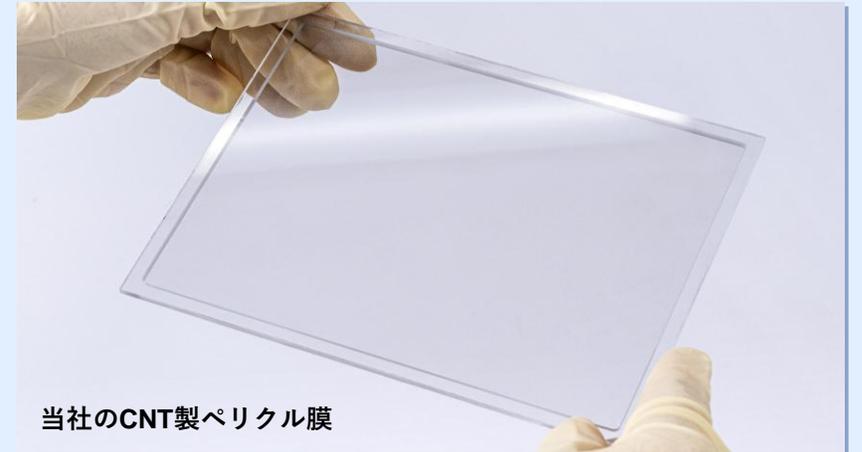
- ペリクルとは、フォトマスク（回路パターンの原版）への異物の付着を防ぐ防塵膜の役割を果たす部材

近年の開発要求

- 先端半導体の微細回路形成には、EUV（Extreme Ultraviolet：極端紫外線）露光機が用いられているが、露光機の性能向上に伴い、より高耐久のペリクルの開発が求められている

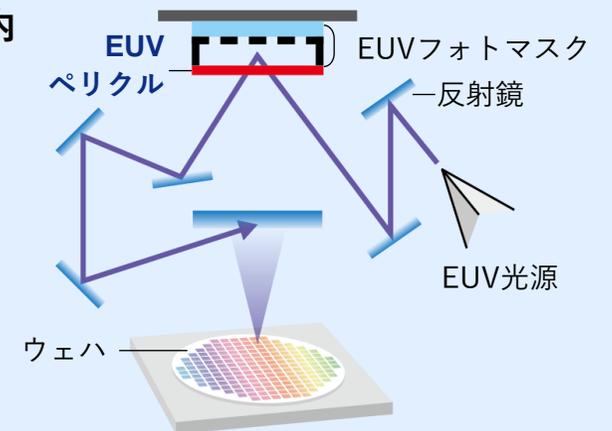
リンテックグループの動き

- 米国・テキサス州の研究開発拠点において、高耐久のカーボンナノチューブ（CNT）製ペリクルの開発に着手。2023年に要素技術を確立
- 2023年10月には、国立研究開発法人産業技術総合研究所と量産化技術の共同研究を開始。2024年7月に独自開発したCNT製ペリクルの量産機の立ち上げに成功した
- 2025年度内の量産体制の確立および早期の社会実装へつなげる方針



当社のCNT製ペリクル膜

▼ EUV露光機内のイメージ



電子・光学関連

オプティカル材 事業部門

光学ディスプレイ関連粘着製品

タッチパネル関連製品

当事業部門売上高
113億円
3.6%



タッチパネル使用イメージ



光学ディスプレイ関連粘着製品

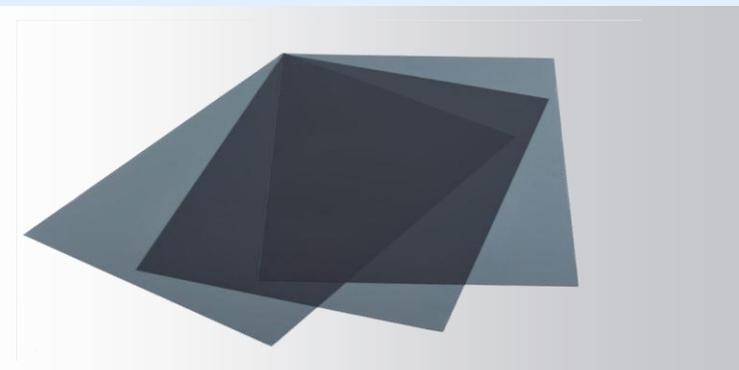
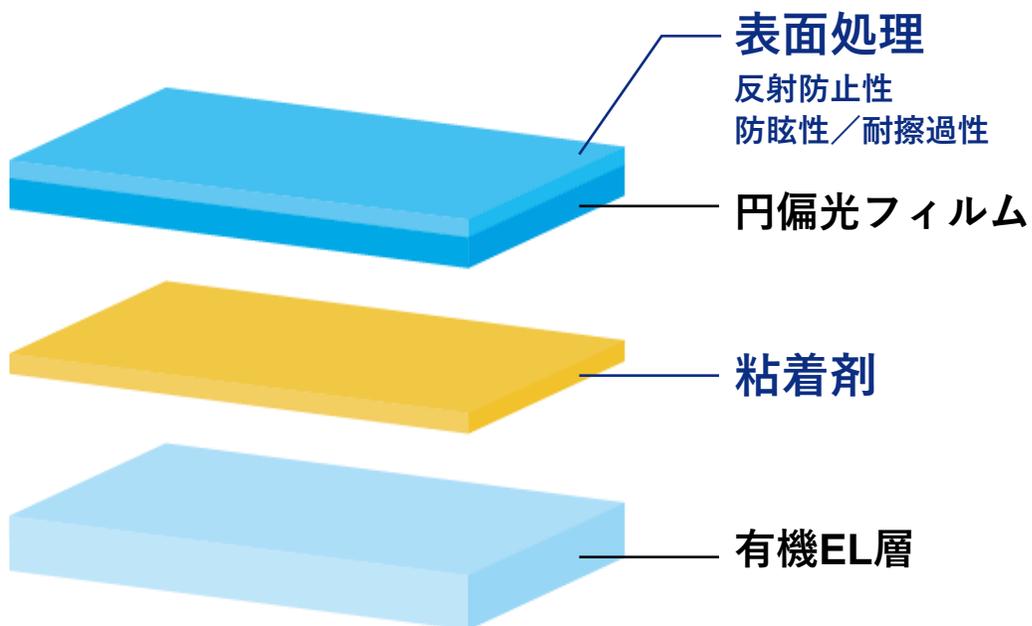


光学ディスプレイ関連粘着製品

■ 光学ディスプレイ関連粘着製品

スマートフォンやタブレット、大型テレビなど有機ELディスプレイの画像表示に欠かせない光学機能性フィルム向けの粘着製品

▼ OLEDディスプレイの構成



■ タッチパネル関連製品／注力製品

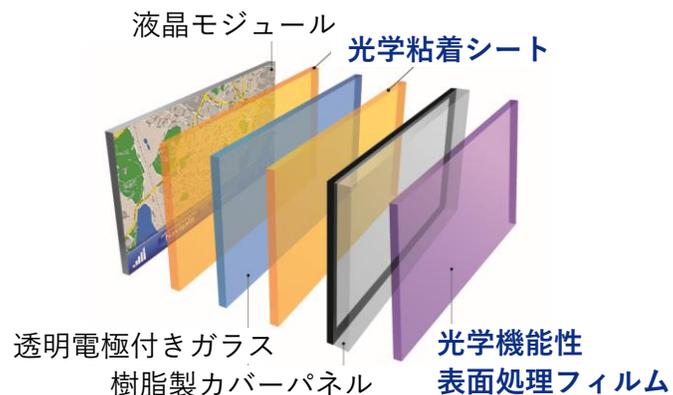
車載用光学粘着シート

- 車載用タッチパネルの貼合に使用される高機能光学両面粘着シート

主な特徴

- 車載用途で求められる厳しい耐久性基準をクリア
- プラスチック樹脂から発散されるアウトガスを抑制

▼ 車載用 タッチパネル の構成図



光拡散フィルム

- 入射した光を必要な方向へ効率良く、最適に拡散させる光学機能性フィルム
- バックライトを使わない反射型ディスプレイにおいて、従来よりも明るい画面表示を実現

▼ 光拡散フィルムの採用事例



スマートウォッチ

自転車用
GPSナビ

洋紙・加工材関連

洋紙事業部門

当事業部門売上高

149億円
4.7%

2025年3月期
連結売上高
3,160億円

カラー封筒用紙

色画用紙

特殊機能紙（耐油耐水紙、無塵紙など）

高級印刷用紙

建材用紙

など



カラー封筒用紙



色画用紙



耐油耐水紙

洋紙・加工材関連

加工材 事業部門

当事業部門売上高

201億円
6.4%

2025年3月期
連結売上高
3,160億円

粘着製品用剥離紙

電子材料用剥離紙

光学関連製品用剥離フィルム

合成皮革用工程紙

炭素繊維複合材料用工程紙

など



粘着製品用剥離紙



合成皮革用工程紙



炭素繊維複合材料用工程紙

- 当社は顧客ニーズに応える製品開発や新規開発テーマの探求を推進しています。事業開発室では、省エネルギーや創エネルギー、海洋資源保全、情報通信・エレクトロニクス、モビリティ、医療・介護といった分野を中心に、新製品・新事業の開発に向けた開発を加速しています。
- 2022年7月にはパーパスブランド「Welsurt」を設け、技術開発と社外への技術提案を強化

Welsurt

Wellbeing, sustainable and smart

環境課題・社会課題に挑む 2つのWelsurt

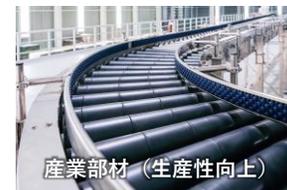
Welsurt Environment

環境に対するサステナビリティを促進するソリューション



Welsurt Social

社会に対するサステナビリティを促進する製品群

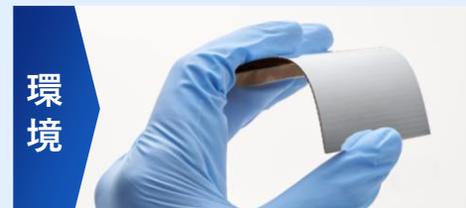


これまでに培ってきた独自の粘着技術や剥離技術、抄紙技術などに新たなテクノロジーを融合させることで、「環境」と「社会」に関する課題を解決し、新たな価値の創造につなげる

▼ 開発品の一例



ミリ波を適宜、吸収、透過、反射して電波を自在にコントロールできる制御シート



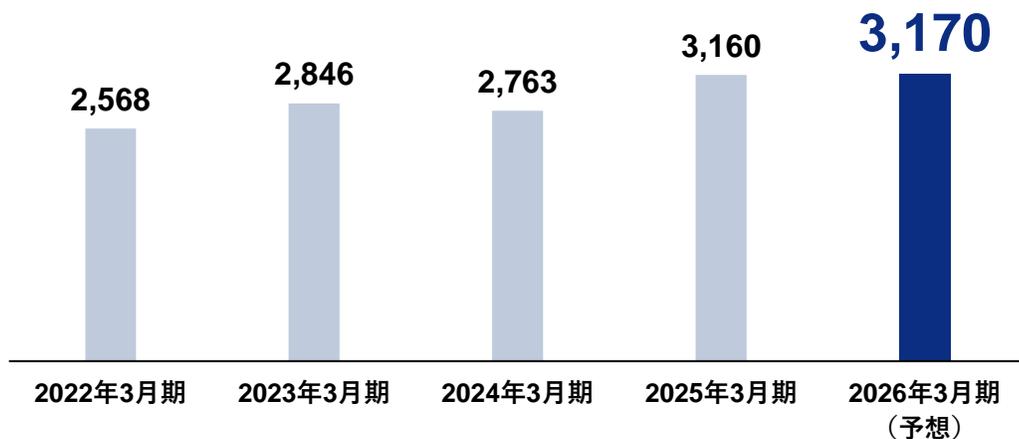
廃熱を利用したバッテリーレス電源として応用可能な薄型熱発電モジュール

03

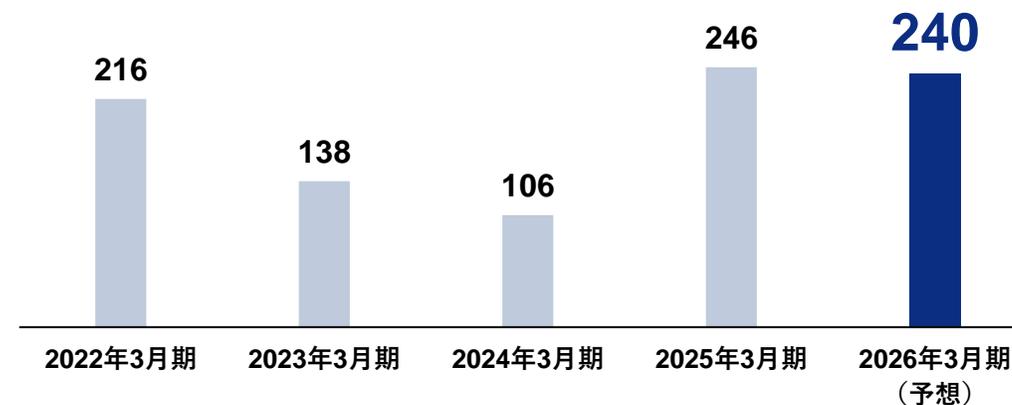
2026年3月期 連結業績予想

(単位：億円)

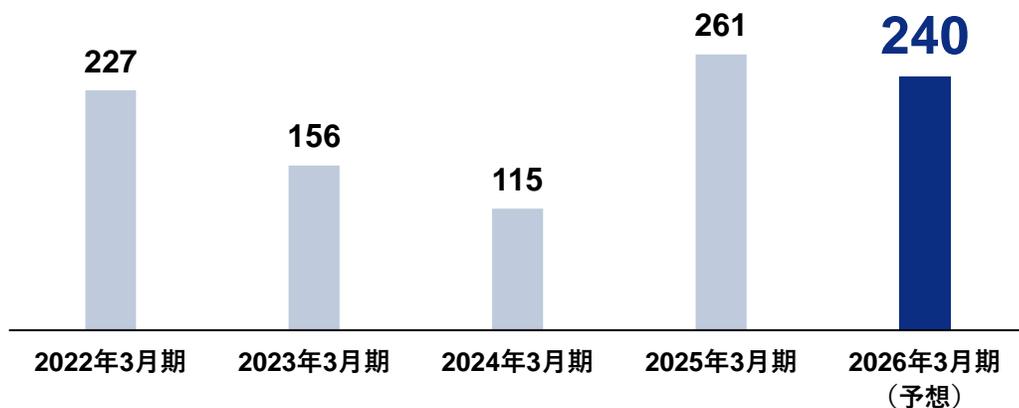
売上高



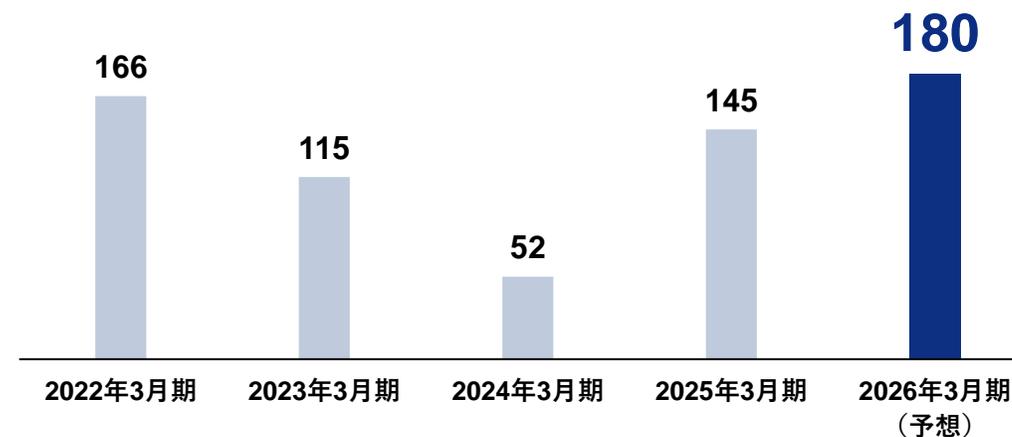
営業利益



経常利益



親会社株主に帰属する当期純利益



04

長期ビジョン、 中期経営計画

名称 LINTEC SUSTAINABILITY VISION 2030（略称：LSV 2030）

期間 2021年4月～2030年3月

基本方針 イノベーションによる企業体質の強靱化と持続的成長に向けた新製品・新事業の創出を通じて、サステナブルな社会の実現に貢献する

- 重点テーマ
1. 社会的課題の解決
 2. イノベーションによる企業体質の強靱化
 3. 持続的成長に向けた新製品・新事業の創出

2021年

2030年

2030年3月期 財務指標

売上高営業利益率

12%以上

ROE（自己資本当期純利益率）

10%以上

LSV 2030
LINTEC SUSTAINABILITY VISION

中期経営計画 LSV 2030 - Stage 1

中期経営計画 LSV 2030 - Stage 2

中期経営計画 LSV 2030 - Stage 3

■ Stage 2 最終年度（2027年3月期）経営目標

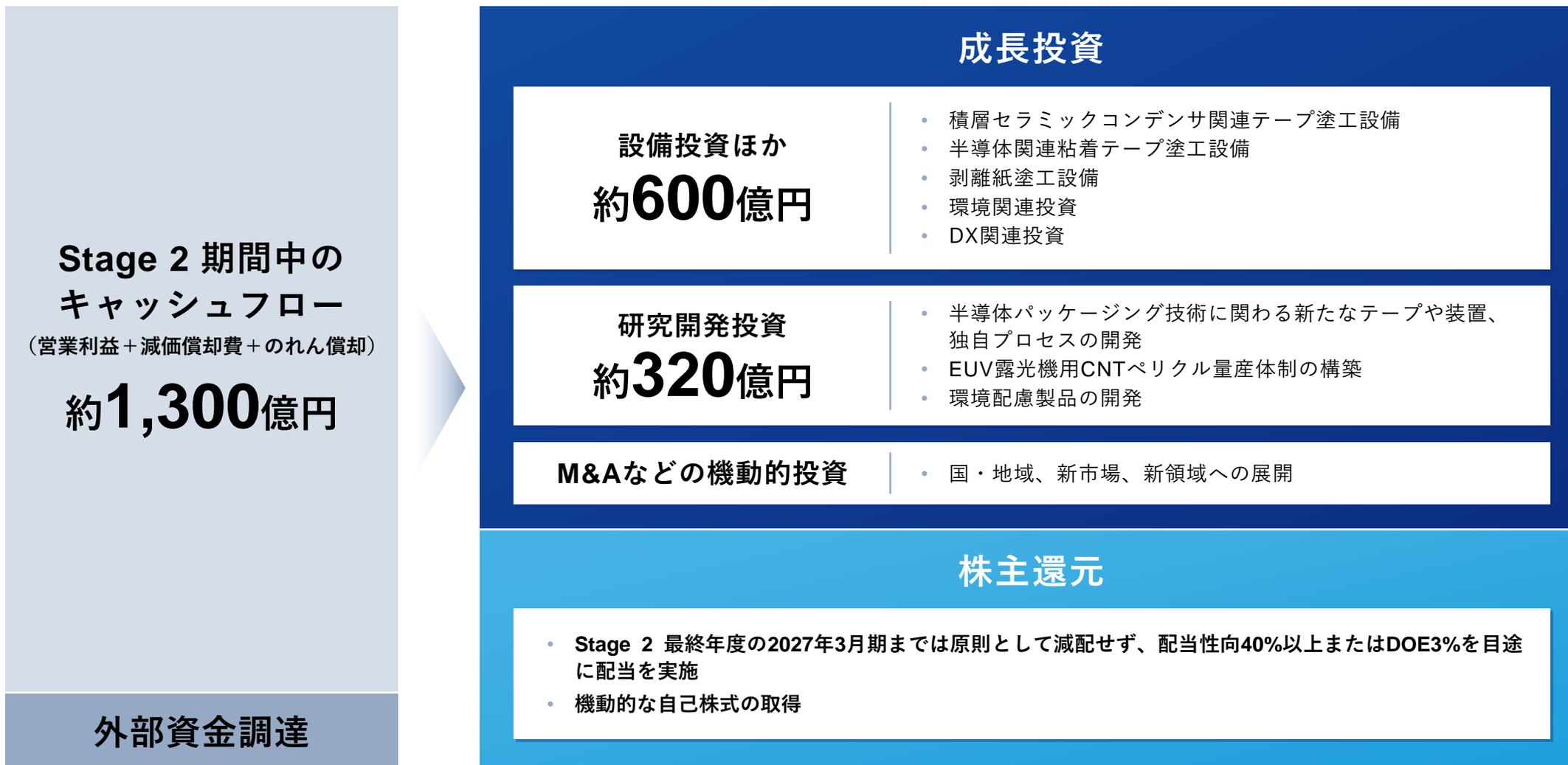
期間

2024年4月～2027年3月

（単位：億円）

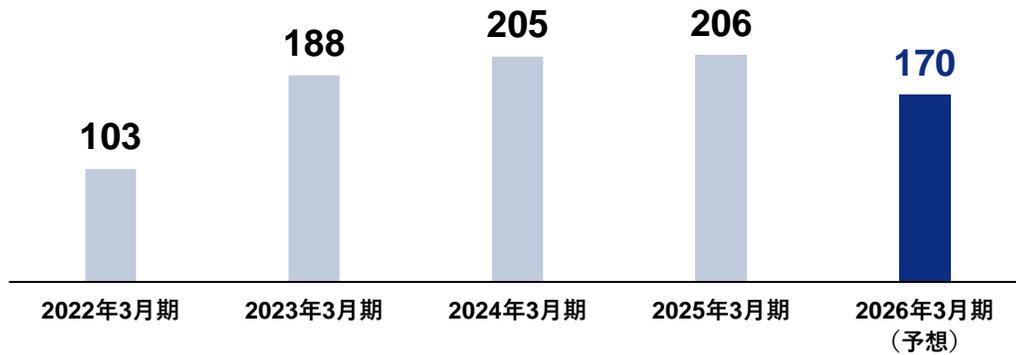
	2024年3月期	2027年3月期	増減額（増減率）
売上高	2,763	3,150	+387 (+14%)
営業利益	106	255	+149 (+141%)
親会社株主に帰属する 当期純利益	52	180	+128 (+246%)
売上高営業利益率	3.8%	8%以上	-
ROE (自己資本当期純利益率)	2.3%	8%以上	-

- 財務基盤の強化ならびに将来の企業価値向上のための生産設備や研究開発投資などに有効活用する

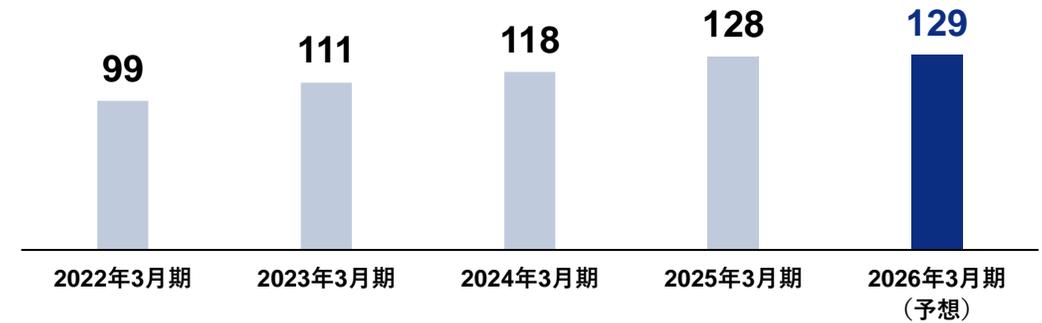


■実績 ■見通し (単位: 億円)

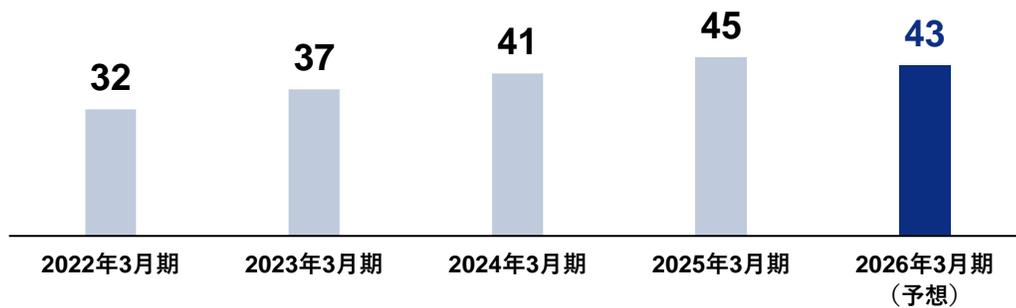
設備投資額



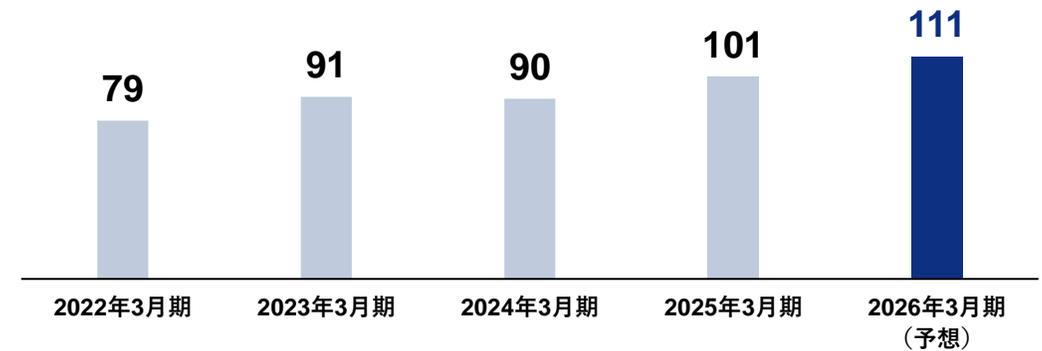
減価償却費



のれん償却額



研究開発費



1 前期(25年3月期)は売上高、営業利益ともに過去最高を達成

2 積極的なグローバル展開 海外売上高比率 約64%

3 配当方針に基づき、2期連続の増配を予定

4 半導体関連事業が成長をけん引し、ペリクルの開発で領域を拡大

当社では新製品情報なども含め、株主・投資家の皆様へさまざまなニュースを幅広くお届けするため、IRメール配信サービスをご提供しています。
配信をご希望の方は、当社IR情報サイトよりご登録をお願いいたします。



IRメール配信サービスのご登録はこちらから

https://www.lintec.co.jp/ir/ir_mail/

本資料に掲載されている業績見通しに関する内容につきましては、本資料の作成日現在において想定できる経済情勢、市場動向および計画などに基づき作成したものであり、その内容の正確性を保証したり、将来の計画数値、施策の実現を確約したりするものではありません。したがって、実際の業績は、今後のさまざまな要因によって異なる可能性があります。